



## 第 1739 回例会

平成 25 年 3 月 18 日 (月)

海南商工会議所 4F 12:30~

### 1. 開会点鐘

2. ロータリーソング 「それでこそロータリー」

### 3. 出席報告

会員総数 53 名 出席者数 35 名

出席率 66.04% 前回修正出席率 86.79%

### 4. 会長スピーチ

副会長 阪口 洋一 君



みなさんこんにちは。本日は花田会長が所要で例会出席できなかったため、代理でスピーチさせていただきます。花田年度もあと 3 ヶ月と少しを残すこととなりましたが、4 月以降も多彩な行事がございます。

4 月 1 日 (月) の夜間例会は藤白の神田屋さんで花見例会とさせていただきます。この例会には、当クラブを退会されました先輩方においていただくよう、ご案内をさしあげております。出席された先輩ロータリアンと旧交を温めたいと思いまます。多くの会員の皆様のご出席をお願いいたします。

4 月 7 日 (日) は恒例の家族例会となります。親睦活動委員会の千賀委員長と委員の方にお世話していただることになります。行先は神戸です。最初はポートアイランドにある神戸花鳥園を観光します。ここは、花の中で鳥と遊べるテーマパークです。その後、ホテルオークラ神戸で美味しい昼食をいただきながら例会を開催いたします。その次に、「北野工房のまち」を見学します。「北野工房のまち」は、旧北野小学校の校舎をリニューアルして平成 10 年にオープンした神戸ブランドに出会う体験型工房です。館内にはアンテノール、ゴンチャロフ、UCC、ベニール、モロゾフ、神戸美人ぬか本舗、といった神戸ブランドが 20 余り入居しており、販売を行っているほか、各店で革小物や化粧品、ピッタ、珈琲、パン等の製作体験ができます。奥様、お子様、お孫様には喜んでいただけると思いますので多くの方のご参加お待ちしております。

4 月 15 日 (月) は職場例会となります。今回は、職業奉仕委員会倉橋委員長と委員の方のお世話で、下津にある紀陽除虫菊株式会社を訪問させていただきます。当クラブ会員の小久保さんの会社です。当日はお世話を掛け致します。紀陽除虫菊株式会社は蚊取り線香の他、入浴剤や日常生活に関わる商品を数百種類製造しておられるところで非常に有意義な例会になるものと期待しております。多くの会員のご出席お願いいたします。

米山記念奨学生の件ですが、来年度も当クラブでお世話することになりました。和歌山大学に留学している、マレーシア出身のアマード・シャキル・ビン・アズミさんと言う男子学生です。私がカウンセラーを引き受けさせていただくようになりました、頑張りますのでよろしくお願ひいたします。

本日は角谷さん、田中さんに後程会員卓話をしていただきます。角谷さん、田中さんよろしくお願ひいたします。有難うございました。

### 5. 幹事報告

幹事 中西 秀文 君

#### ○例会臨時変更のお知らせ

和歌山 RC 4 月 2 日 (火) → 4 月 2 日 (火)  
12:30~ 紀州東照宮

岩出 RC 4 月 4 日 (木) → 4 月 4 日 (木)  
花見例会 貴志川 大池莊

和歌山東 RC 4 月 4 日 (木) → 4 月 4 日 (木)  
18:30~ ダイワロイネット H 和歌山 4 F  
お花見例会

4 月 18 日 (木) → 4 月 20 日 (土)  
18:30~ ザ・ブライトガーデン  
(松本空港 RC との合同例会)

高野山 RC 4 月 12 日 (金) → 4 月 13 日 (土)  
○休会のお知らせ

有田 RC 3 月 21 日 (木)



四つのテスト 言行はこれにてらしてから

- ①真実かどうか ③好意と友情を深められるか
- ②みんなに公平か ④みんなのためになるかどうか



事務所 〒642-0002 海南省日方 1294(海南商工会議所内)

電話(073)483-0801 FAX(073)483-2266

会長：花田 宗弘 幹事：中西 秀文 S A A : 那須 正志

## 6. 新入会員卓話

○角谷 太基 君



た。これからもどうか、ご指導賜りますようよろしくお願い申し上げます。これからの時間ですが、私の生き立ち、経歴そして、今の会社経営と将来のビジョンについてお話をさせていただきたいと思います。私は昭和40年2月1日に家庭用品製造販売業を営む父とそれを支える母との間で、和歌山県海南市で生まれました。私が第二子ではありますが、長男であったこともあります。生まれたことを聞いた父は、大変喜んで、出張先の東京で、赤ちゃんの名付けで有名な明治神宮の高島易断に行き、私の名前をいただいたと聞いています。しかしながら、子供の頃の私は、この太基という名前が正直あまり好きではありませんでした。父親が思いを持ってつけてくれたにもかかわらず、ありかたいという感謝の気持ちは当時、子供であった私にはありませんでした。現在では、自分自身が子を持つ身となり、両親の気持ちを少しばかりはわかるようなり、今では感謝の気持ちで一杯です。

話は戻りますが、父が営んでおりました、家庭用品製造販売業の会社は、私が生まれた当時は、創業4年目。父の個人名をとった角谷勝司商店と言う名前を屋号とし、自宅を事務所兼倉庫とし、従業員は父、母、結婚前の父の一番下の妹、そして祖母の4人を中心に操業している個人商店でした。そんな環境の中、私は亡き祖母の背中にいつもおぶってもらい、乳幼児期を過ごしました。かすかながらに現在でもその記憶は残っております。兄弟は二歳上の姉と4歳下の妹との3人兄弟です。三人兄弟の真ん中で女の子にはさまれ、一人息子ということもあり、母にはかなり甘やかされて育ったと思います。そんなせいもあり、学校ではおとなしく、家では内弁慶がありました。そんな性格ですから、学生時代はやんちゃで、特に何か悪いことをしてかすとか、目立ったとこをするだとか、リーダーシップを発揮するだとか、平凡な学生であり、何不自由なく時間だけが過ぎていったような気がします。地元の高校を卒業し、大阪の大学に進学、卒業し、大学卒業後は父の知人がアメリカで住んでいた事もあり、二年間、アメリカに留学ではなく、遊学をさせてもらいました。留学ではなく、遊学のため、英語はほとんどしゃべれません。帰国後は、父の勧めもあり、大阪に本社をおく大手商社に二年間勤務し、26歳のときに、父の経営する株式会社サンコーに入社させていただきました。

今、ふりかえってみると、そのときまでの私の人生は、特にこうでありたいという強い目標もなく、素直で真面目だけがとりえの性格が災いしたのか？周りに流されるままに、また、時には、両親に言われる

まさに、進路を決めていたような人生でした。ただ、小さい頃から、私の潜在意識の中には、常に、私の道は父のあとを継承したいという強いものが存在していました。それは、もの心がついたころから、両親が誰にも負けないくらい一所懸命働いている姿をこの目で見続け、また祖母からも毎日のように父親の若い頃からの苦労話を聞かされていたので、両親に対しては、自然と尊敬の念が生まれ、事業を継ぐことが既に課せられたこの世に生まれた固有の要のように感じていたからでした。父が創業した株式会社サンコーへ入社後は、特別扱いされることなく、東京営業所の一営業からスタートしました。また、父の会社に戻ってくる前に2年間だけではありますが、よその釜のメシを食ってきたこともあり、多少なりとも、現場の気持ちはわかって仕事をしてこれた気がします。このような形で父親の会社に入り、社員さんの気持ちを理解しながら仕事をさせていただき、現在の代表職にいたったことにも、そのように意図的に仕向けてきた父には、非常に感謝しています。

ここで話を変えて、弊社の会社の事業内容や考え方についてお話をさせていただきます。

弊社は、私の父が中学を卒業後、伯父の経営する家庭日用品の卸問屋を13年間勤めたのち、28歳で1962年（昭和37年）に創業した会社です。現在、創業以来50年が経過し、私が4年前の平成21年4月に社長を父から引き継ぎました。父は現在、相談役として、私や役員、幹部社員、時には一般社員に対して文字通り相談役として、毎日、元気に出勤してくれています。この存在は、私以下、役員、従業員にとって非常に心強い存在になっており、感謝しております。和歌山県海南市に本社を置き、創業当時より、海南市の地場産業である家庭日用品、具体的にはバス・トイレ・キッチンといった水周り関連の生活用品を自主企画にて、地元の協力工場を中心に製造委託し、一部は自社工場でも加工・製品化しています。自社オリジナル企画として商品開発し、製造、加工した製品はお得意先様である専業の問屋を通じて全国のスーパー、ホームセンターや量販店といった業態の店頭、生協をはじめとした通販カタログ等の紙面を通じて全国の生活者に発信・販売されています。最近では新しい販売ルートも拡大し、24時間放映のTVショッピングやインターネット販売業者などを通じての販売も増加しつつあります。日本各地域に存在している他の地場産業の地域同様、海南の家庭日用品産業も、例外ではなく、製造・加工部門の空洞化が急速に進んでいます。過去から何年も続いているデフレの影響で、年々、製品単価の下落が続いており、同業他社の多くは、生産コストの引き下げのために人件費の安価な中国や最近ではタイやベトナムへの生産シフトを進めています。その中で、弊社は地元にとどまり日本製にこだわって、ものづくりをしています。弊社が国産にこだわりを持つ主な理由



としては、日本国内には優秀な加工技術をもつ製造業者がたくさんあり、そこを取り組むことで他社にない付加価値商品を作れるという考え方からです。それに、めまぐるしいライフスタイルの変化から生まれる不満やニーズにいち早く対応するため、開発した製品スピードをもって世に送り出し、生活者に喜んでもらいたいという強い思いも国産にこだわる理由としてあげられます。結果として、同業他社が海外へ生産をシフトするからこそ、国内生産にこだわることで差別化が図れることもあります。いずれにせよ、価値を最重視することにこだわり続けてきましたので、世間によくありかちな、モノマネ的発想で、どこにでもあるものを他社よりも1円でも安く作って販売し、価格勝負だけで市場を占有するといった発想は弊社にはありません。

弊社の事業の目的・意義についてですが、「めまぐるしく変化するライフスタイルから生じる生活者の新しい不満を解消し、ニーズを満たすために、そんな思いで開発した製品を生活者に気付いてもらって買ってもらって使っていただく。そして、その結果として、満足してもらう。時には感動までしていただいて、たくさんの“ありがとう”をもらう。これら生活者の多くの“ありがとう”をもらう」ということとして定義付け、全社員で共有知化しています。この事業の目的・意義が、われわれサンコー全社員の仕事する大儀あり、永続的に繰り返すことで、社会に貢献し続けることができ、弊社の永続的発展をもたらすものと信じています。ここでいう生活者とは、現時点ではあくまで日本国内で生活する人のことを指します。いずれは世界中の生活者のためにといえる会社にしたいと思っています。国産にこだわる理由の最後に、創業者である現相談役の考え方であるサンコーという社名の由来=三幸精神（3つの幸せ=「作る人、売る人、買う人の三者が幸せにならないと、商売は永続できない」という）考え方に基づくものです。地元の加工業者さんを大切にするという考え方です。近江商人の言葉=売り手よし・買い手よし・世間よしという考え方とよく似ています。これらの理由により、生活者の生の声を生かす国内商品開発を愚直にこだわり続けてきましたおかげで、安易に他社商品を模倣したり、無理に低価格で安売りで勝負するとかいう考えは社員の心の中からは完全になくなりました。結果として、それぞれの業界で、小さいながらも「サンコーらしさ、サンコーならでは」という評価もあちこちで耳にし、企業としての顔が業界でも確立しつつあることを実感いたします。これが弊社の強みとなっています。

今後の事業展開につきましても、今までと同様、生活者という軸をぶらすことなく、一人でも多くの生活者の方に喜んでもらい、たくさんの「ありがとう」をもらうために、販売チャネルを今まで以上に多様化し、永続的発展を目指していきたいと思っております。地元に育てられ、ここまで大きくさせていただいた会社です。ここにおられますロータリアンの方々を含む、地域の方々、地域社会の繁栄発展に少しでも貢献できますように精進してまいりますので、今後とも変わら

ぬご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願ひします。

つたない話となりましたが、私の卓話をこれで終わらせていただきます。ご静聴、有難うございました。  
○田中 祥秀 君

株式会社なかモーター自工の田中です。まず、自己



紹介をさせていただきます。私は1974年(昭和49年)5月に紀美野町小畠で、生まれ、現在38歳です。3歳の時に和歌山に引っ越し、ようすい保育園に入園、和歌山市立雜賀小学校入学卒業、和歌山市立西浜中学校入学卒業、近畿大学熊野工業高等専門学校入学卒業。その後、三菱自動車整備専門学校を卒業しました。

卒業後は、トヨタカローラ和歌山入社し、3年半勤務した後、退社。なかモーター自工入社し、現在に至っています。役職は、3年前に専務取締役就任。そこほか、海南納税協会に青年部に入会し、他、全日本ロータスクラブのネクスト近畿では会長に就任しています。2012年(平成24年)には㈱モダンネゴロを設立し、代表取締役もしています。2013年(平成25年)には、海南東ロータリークラブに入会させていただきました。家庭は妻智子、長男夢人(小5)と長女愛乃(小1)次女望未(年少)の5人家族です。住まいは和歌山市三葛です。

会社の紹介は、1969年(昭和44年)に叔父である中正碩が、なかモーター整備を設立。1974年(昭和49年)に㈱なかモーター自工と法人化し、現在の動木に移転しました。1975年(昭和50年)には全日本ロータスクラブに入会(チャーチーメンバー)し、1975年(昭和50年)には、海南市船尾に海南営業所設立しましたが、3年後閉鎖。1982年(昭和57年)はシンガポールにてタイヨウモータースを設立しました。1986年(昭和62年)に田中祥次郎が代表取締役に就任。1989年(平成元年)にマツダ㈱の第5チャンネルのマツダオートザムチャネルに参加しました。2002年(平成14年)には岩出市にマツダオートザム紀北(マツダディーラー)を設立。2010年(平成22年)には海南市冷水に海南店を設立しました。現在、紀美野・岩出・海南に3店舗。全店民間車検場・本社板金工場併設しています。今後ともよろしくお願ひします。



## 7. 閉会点鐘

次回例会

第1740回例会 25年3月25日(月)

海南商工会議所 4F 12:30~

I.D.M 報告

3月は識字率向上月間です



## ニコニコ・BOX

柳生 享男君 角谷様、田中様、本日卓話ご苦労様です。



## 国際ロータリー ニュース

### 卓越したローターAkt

#### プロジェクト賞の受賞クラブが発表される

インド、ムンバイのローターAkt（会員のほとんどが医師）は、貧しい地域の学校に通う子どもたちのために、視力検査や総合的な眼科医療を提供しています。医療キャンプの方式で行われているこのプロジェクトで、何千人の子どもたちが恩恵を受けました。カドウセウス・ローターAkt（インド、ムンバイ）によるプロジェクト（子どもたちに視力検査や眼科医療を提供するプロジェクト）が、卓越したローターAkt・プロジェクト賞を受賞しました。会員はこのプロジェクトのためにさまざまな募金活動を実施し、15,500米ドルを集めました。子ども一人あたり1ドル以下で眼科検診の費用が貢えるよう、医療品をまとめて購入しただけでなく、白内障や斜視の手術を提供するため、3つの非営利組織病院と協力しました。

受賞クラブは、3月11～17日の世界ローターAkt週間に合わせて発表されました。各地域から選ばれた受賞7クラブのうち、ムンバイのクラブが世界賞に選ばれました。受賞クラブは、6月にポルトガルの里斯ボンで開催されるローターAkt大会前会議にて、プロジェクトに関する発表を行います。



この医療キャンプで治療を受けた子どもたちは、目の屈折障害、感染症、アレルギー、ビタミンA欠乏症などに苦しんでいました。プロジェクト開始後7カ月間で、1万人

以上の子どもたちが検査を受け、そのうち1,520人が何らかの視力矯正治療や手術を受けました。クラブ会長のパンカジ・ジェタワニさんは、次のように話します。「ムンバイ地域の政府が運営するリソースの少ない学校に通う子どもたちを支援したいと考えました。彼らは視力検査を受けたことがなく、何らかの屈折障害を抱えています。黒板がよく見えないために学校が嫌いになる子どもや、見えないことを問題ではない、または治療が不可能であると思っている子どもがいます。このキャンプで治療する子どもたのほとんどが、これまでに眼科にかかったことがありません」プロジェクトの計画、実施、評価、募金活動においては、提唱クラブであるボンベイ・セントラル・ロータリークラブが支援を提供しました。募金活動の一

つとして行ったコメディショーでは、非営利のコンサルティング会社と協力し、インドで有名なコメディアン4名の公演を無料で取りつけました。また、インターネットを利用したクラウドソーシングで、寄付も幅広く働きかけました。医療キャンプの実施だけでなく、子どもたちに正しい眼科ケアの方法を学んでもらうため、教師に対する研修プログラムも開始しました。この結果、92%の子どもたちが、研修を受けた教師から教えられた眼科ケアを実行していることが分かりました。このプロジェクトは多くの子どもたちを支援し、彼らの未来にも影響をもたらす正しい治療を提供することができましたとジャタワニ会長は話します。

#### 世界ローターAkt週間に地域賞に選ばれた

##### ローターAkt・プロジェクト

○アフリカ：カイロ・ロイヤル・ローターAkt（エジプト、第2450地区）によるプロジェクトクラブ会員は、エジプトの村にある16の家に太陽光システムを設置しました。これにより、村人は、食物を安全に貯蔵し、子どもたちが夜間に勉強するための電気を確保することができました。クラブはこの村のほかの350世帯にも太陽光システムを設置できるよう、募金活動を実施しています。

○アジア太平洋地域：イラワラ・ローターAkt（オーストラリア、ニューサウスウェールズ州、第9750地区）のプロジェクト（都市の農園）：クラブ会員はほかの地域団体と協力し、有機農園を作り、運営することで、若者の雇用を創出し、地元の事業主に農産物を販売する機会を提供しました。

○ヨーロッパ：バリ・ローターAkt・クラブ（イタリア、第2120地区）とユニセフ（アフガン女性と子ども）によるプロジェクト：クラブ会員はユニセフと協力し、アフガニスタンで10人の助産師を研修し、出産に必要な医療物資を提供しました。

○ラテンアメリカ：ガイアナ大学ローターAkt（第7030地区）の「ビクトリア識字率向上プロジェクト」：クラブ会員は、地元の小学校で毎週、50人の生徒を対象にした識字率向上および計算スキル向上のプロジェクトを実施しました。さらに、学用品や教室用の備品なども寄贈しました。

○南アジア：H.R.大学ローターAkt（インド、第3140地区）のプロジェクト：クラブ会員は、一般の人々の眼球提供への認識を高め、ドナーカードへの誓約を奨励するため、学校や地域でさまざまな行事を実施しました。また、同クラブはカドウセウス・ローターAkt（本年度の国際賞受賞クラブ）と協力し、眼病治療のために14,000米ドルを集めました。

○米国、カナダ、カリブ海諸国：イエール大学ローターAkt（米国、第7980地区）によるインドの部族地域社会への職業研修プロジェクト：クラブは、インドのボンベイ・ミッドタウン・ロータリークラブと協力し、インドのマハラシュトラの部族地域社会に職業研修センターを設置しました。このセンターでは、洋裁や溶接などのスキルを教え、地元の人々の生活の質の向上を目指しています。